



〈記念式典・テープカット〉



〈鹿嶋神社白河提灯まつり浦安の舞〉



〈上平子どもじゃんがら〉



〈三島のつる細工〉

開館 10 周年記念事業

まほろんは平成13年7月に開館し、昨年の7月に10年の節目を迎えました。しかし、3月11日に発生した東日本大震災の影響をうけ、施設内に被害が生じてしまったため、節目の日を祝うことは叶いませんでした。福島県をはじめ、関係者のご尽力により、本年4月末までに、野外展示施設などの破損した施設が復旧し、5月19日（土）に開館10周年記念式典、イベントを行いました。

記念式典では、初めに当館の菊池館長が「福島県、そして東北の復興と日本の発展に寄与し、より豊かな次の10年に向け進んでいくことを誓う」と式辞を述べ、さらに福島県知事があいさつし、福島県議会議長及び白河市長さんから祝辞をいただきました。また、開館10周年に寄せて、まほろんのすぐ南側にあり、総合学習授業等でまほろんを活用されてる白河市立南中学校の穂苺紗衣さんと大平千夏さんが、感動的な作文を発表されました。

記念イベントでは、「子ども達が伝えるふくしまの郷土芸能」、「ふくしまの匠—漆工・竹細工・つる細工—」を開催しました。地元白河市の中学生が演じた「鹿嶋神社白河提灯まつり浦安の舞」の巫女さん姿の優雅さ、いわき市の「上平子どもじゃんがら」の太鼓の音色と踊りの溢れんばかりの躍動感、来館された方にふくしまの子ども達の力強さを印象づけました。また「会津地方の漆工」、喜多方市の「雄国竹細工保存会」、「三島町のつる細工」の皆さんに製作実演をしていただき、自然と調和したふくしまのすばらしい伝統の技を発信することができました。

体験学習

実技講座「家族で土笛・土鈴をつくろう」

「家族で土笛・土鈴をつくろう」を、5月12日（土）に開催しました。4組13名のご家族が参加され、美しい音色を想像しながら土笛と土鈴づくりに挑戦しました。

土笛も土鈴も構造的には内側が空洞となるため、丁寧な作り方が要求されます。特に土笛は、おわん形の粘土を貼り合わせる時に注意しないと形がゆがんでしまい音が出にくくなってしまいます。

粘土を貼り合わせた跡が目立たないように表面をなでたり磨いたりした後は、吹き口づくりです。道具で吹き口を開け、試し吹きを繰り返しながら、吹き口の内側を削って行きます。気に入った音になるまで調整し、最後に模様などを付けて完成です。

土笛をつくった後は、土鈴づくりです。こちらは、核になる球形の粘土を紙に包みその上に皿状にした



粘土を被せ包み込んでつくります。振ったときの音色は、焼き上がったからのお楽しみです。作品は、5月31日（木）に電気窯で焼きました。

＜土笛の形づくり＞

「まほろん森の塾」

「まほろん森の塾」は、年間を通して古代の人々の暮らしの知恵を楽しく学ぶ体験学習です。第12期生となる今年度は、小学4・5年生の9名が塾生として活動を行います。日程と体験メニューは以下のとおりです。

- 第1回 5月20日 結団式 土笛づくり
- 第2回 6月23日 縄文土器づくり
- 第3回 9月15日 縄文時代の家で暮らそう
- 第4回 10月13日 縄文クッキーづくり
- 第5回 11月3日 鉄づくり
- 第6回 12月22日 凧づくり 解団式

今後の活動内容は、随時ホームページやまほろん通信で紹介しますので、是非ご覧ください。



＜常設展示見学の様子＞

夏のまほろん

イベント「まほろん夏まつり」

開催日時：平成24年7月29日（日）10時～15時
夏のまほろん最大のイベント、「まほろん夏まつり」をご案内します。

イベントのメインは、今回で4回目となる「古代三種競技：まほろんカップ」です。「古代三種競技」とは、「弓矢」、「槍投げ」、「火おこし」の三種類の



＜昨年のまほろん夏まつり＞

まほろんを代表する体験メニューのことです。「弓矢」は当てた的の点数で、「槍投げ」は飛んだ距離で得点を競います。「火おこし」は発火した早さが得点になります。これらの総合得点で1位から3位までの競技者に、表彰状と記念品が贈られます。

「まほろんカップ」のほかにも、さまざまな体験活動を用意しています。

「古代のすり染め体験」は、原始的な染色の1つです。「藍染め」の原料になるタデアイという植物の葉を、石などのかたい台の上で布にすり込んで染色します。色は淡いブルーに染め上がります。

「かき氷づくり体験」は、昔ながらの手動のかき氷器で、かき氷をつくっていただく体験です。甘いシロップも用意しております。「弓矢」や「槍投げ」の体験で一汗かいた後のかき氷は格別です。

「勾玉づくりセットプレゼント抽選会」は、勾玉づくりセットが当たる抽選会です。勾玉づくりセットが当たったお客様は、館内で勾玉をつくることができます。

縄文時代の土器など、まほろんの宝物を保管している収蔵庫を見学する「バックヤードツアー」も行います。

企画展示案内

収蔵資料展

「新編陸奥国風土記巻之十 むつのにふどき 標葉郡 しねはのこおり」

会期:平成24年6月23日(土)～8月26日(日)

会場:まほろん特別展示室

「風土記」とは、奈良時代に、全国各地の様子や産物、そこに住む人々の風俗をまとめ、天皇に献上した書物のことです。当時の状況がわかる興味深い資料ですが、残念なことに、現在の福島県域を含む「陸奥国」の部は残されておりません。

そこで、まほろんでは開館以来、収蔵する考古資料などから県内各地域の歴史や人々の営みを復元し紹介する「新編陸奥国風土記展」を企画し、開催してきました。第10回目となる今回は、古代の「標葉郡」とその周辺地域を取り上げます。



鍛冶屋遺跡全景

「標葉郡」は7世紀後半に設置された行政

区域で、1896年(明治29)に新たに双葉郡が設置されるまで1,200年以上も存続しました。その範囲は、現在の双葉郡北部に相当し、また、昨年3月の東日本大震災と原発事故により最も大きな被害を受けた地域でもあります。



後田A遺跡出土碗

その歴史は、現在確認されているところでは、古く後期旧石器時代にさかのぼります。それから現在まで、多くの人々がこの地で生活をし、その痕跡は遺跡・遺物として残されました。今回の展示では、標葉郡とその周辺にあたる現在の浪江町・双葉町・大熊町・富岡町・楡葉町の代表的な遺跡から出土した石器や土器などを、時代ごとに「旧石器時代のくらし」、「縄文時代のくらし」、「古代のくらし」、「中近世のくらし」に分けて展示し、地域のいにしへの姿を紹介します。

なお、「新編陸奥国風土記展」シリーズは、今回の「巻之十 標葉郡」をもって県内を一巡し、最終回となります。是非お見逃ししないように。

館長講演会と文化財講演会のご案内

今年度最初の館長講演会が、5月20日(日)に行われました。第1回目は「縄文文化を世界遺産に」と題して、菊池館長が直接関わってきた「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を軸に展開され、ユーモアと率直な見解を交えてのわかりやすいお話でした。様々な質問が飛び交い、大盛況となりました。

今後の館長講演会は、昨年度と同様に『歴史は知恵の森』を総合的なタイトル(シリーズ)として、7月21日(土)「世界遺産の基礎知識(1)」、9月30日(日)「世界遺産の基礎知識(2)」、11月17日(土)「海外の世界遺産」、1月19日(土)「日本の世界遺産」の計4回を予定しています。



第1回館長講演会

また、5月12日(土)、福島県文化財保護審議会委員の懸田弘訓氏を講師に、今年度最初のまほろん文化財講演会「被災地の無形の民俗の現状と課題」

が行われました。東日本大震災の津波・原発事故による、福島県内の無形の文化財の被災状況と、その復興に取り組む方々の姿をわかりやすく解説されました。6月17日(日)には東北芸術工科大学教授の安斎正人氏を講師に「自然災害と縄文人」を開催しました。

今後の文化財講演会は、次の4回を予定しています。8月26日(日)「鹿島神社の歴史と祭り」、10月7日(日)「阿部正功の生涯と学問一人類学・土俗学・考古学一」、11月23日(金)「後世に伝える福島の郷土食」、1月26日(土)「福島市和台遺跡の世界」。

館長講演会、文化財講演会ともに、事前申し込みは不要です。皆さまのご参加をお待ちしております。



文化財講演会「被災地の無形の民俗の現状と課題」

文化財研修のご案内

7～9月の研修

7～9月の文化財研修は、7コースを予定しています。

7月7日（土）は、専門考古学講座Ⅰ「東北地方古墳研究の新知見」を実施します。進展の著しい研究の現状を、広い視野から解説します。

7月14日（土）は、体験学習支援研修Ⅰ「染色（藍染めの基礎）」を実施します。初歩的な藍染めの知識と技術を学びます。

8月1日（水）～3日（金）は、教職員発掘調査体験研修、8月1日（水）～2日（木）は、調査技術研修を実施します。会場は同じ発掘現場となり、基本的な技術が学べます。

8月25日（土）は、土器復元研修を実施します。今回の震災で破損した土器の修復に活用できます。

9月8日（土）は、考古学基礎講座Ⅲ「衣について」を実施します。カラムシの歴史や利用方法についてわかりやすく解説します。

9月22日（土）は、無形の文化財研修「民俗芸能」を実施します。民俗芸能を中心に、調査・記録・活用などについて学びます。

各コースの詳細については、開催日の約1ヶ月前にホームページや館内備え付けのポスター・チラシなどでお知らせしますので、ご覧ください。みなさまの応募をお待ちしています。



シリーズ収蔵品紹介 13

法正尻遺跡出土の縄文土器

今回紹介するのは、猪苗代町と磐梯町にまたがる法正尻遺跡出土の縄文土器です。眼前に磐梯山がせまる翁島丘陵上に位置する法正尻遺跡は、磐越自動車道建設に伴い、昭和63年・平成元年に発掘調査を行いました。縄文時代前期末葉～中期末葉（今から5千年～4千年前）の竅穴住居跡129軒、土坑759基などとともに、多量の土器や石器が出土しています。

興味深いのは759基という土坑の数で、調査歴のある遺跡としては県内有数の多さです。中でも断面形がフラスコ形をした袋状土坑が最も多く、中から完全な形に近い土器がまともに出てきます。右の写真の土器



＜法正尻遺跡の火炎土器＞

も他6個の土器とともに、袋状土坑（写真）から出土しました。

この土器には、山形にせり上がる口縁部に橋状把手がつく



＜袋状土坑 土器出土状況＞

など、東北地方南部を中心に分布する大木式土器の特徴が表れたものとなっています。また、新潟県の信濃川流域を中心に発達した火炎土器の特徴も有しており、当地と火炎土器の本場新潟との交流をうかがわせる大変魅力的な土器です。

波打つ口縁部は装飾性豊かで、器面は隆線できまなく加飾されており、溢れんばかりの躍動感がひしひしと伝わってきます。

なお、法正尻遺跡の出土遺物のうち855点が、平成21年に、国の重要文化財に指定されました。当館では常設展示室において、その中から選りすぐりの縄文土器を年3回に分けて展示しています（写真の土器は、7月31日まで展示）。

（学芸員 山本友紀）

まほろんからのお知らせ

夏休みは無休です

もうすぐ夏休み。7月21日（土）～8月26日（日）の期間中、まほろんは月曜日も開館します。

さらに、夏休みだけの「特別体験メニュー」をご用意しています。7月29日（日）は、「まほろん夏まつり」もあります。

お楽しみに！



ご利用案内

開館時間 9：30～17：00（入館は16：30まで）

休館日 月曜日（月曜日が祝日・休日の場合はその翌日）、国民の祝日の翌日（土曜日・日曜日にあたる場合は開館）、年末年始（12月28日～1月4日）ただしGW・夏休み期間中の月曜日は開館

入館料 無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）

その他 団体（20名以上）でご利用の場合は、事前にご予約ください。